様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　５月１７日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21500577
研究課題名（和文）　卓越したスポーツ指導者のコーチング熟達化過程の質的分析による支援プログラム開発
研究課題名（英文）　Building a supportive coaching program: Qualitative analysis of coaching expertise of elite sport coaches
研究代表者
北村　勝朗（KITAMURA KATSURO）
東北大学・大学院教育情報学研究部・教授
研究者番号：50195286

研究成果の概要（和文）：
本研究の目的は,スポーツ指導者の熟達化過程のモデル構築および育成プログラム開発である。日本で優れた指導実績を残しているエキスパート指導者を対象とし，１対１，深層的，半構造的インタビューにより調査を行った。同時に，調査対象指導者による指導を受けた経験を持つ選手を対象とし，選手の視点から捉える指導者の思考・行動について調査を行った。得られたデータは質的データ分析法を通して多角的に指導熟達化モデルとして構築された。分析の結果，最終的に指導熟達化モデルは，前年度までの研究成果を受け，(1)指導者としての意識変革，(2)関係再構築への認識，および(3)指導役割の取り込み，の３つのカテゴリーから構成されることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study was to build a supportive coaching program for sport coaches. Expert sport coaches were interviewed individually. In-depth, semi-structured interviews were conducted to each coach. The interviews focused on the key elements that enable d coaches to achieve success. The results of the analysis revealed three elements for developing coaching expertise: Recognition of self-change, Refinement of coaching skills, and Cultivation of players' mind.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学
キーワード：卓越指導者，スポーツ，熟達化過程，質的分析，支援プログラム

１．研究開始当初の背景

日本におけるスポーツ指導者育成に関する研究は国際的なコーチング研究の中でも立ち遅れており，優れた指導方法の開発の問題や，優れた指導力を発揮する指導者育成の問題等，多くの問題が山積している。その背

景には，これまでスポーツ指導者育成に関する研究では，選手経験の中で培われた競技特性に関わる実体験をいかに応用していくか，といった選手経験の発展的実践や，指導者になった後に指導者養成講習を受けて指導者として自立していく，といった指導者に求められる知識・技術の効率的な獲得という関心で研究が進められることが多かった点が問題としてあげられる（Nicholson,1988）。そこでは，優れた指導は，経験や勘，あるいは指導者の個性によって成立するとする捉え方と，優れた指導は科学的知識・技術の量的蓄積によって成立するとする捉え方を背景とする「経験－知識」という二元図式的な教育概念上の対立から，自由放任的な経験主義的な指導者育成と，情報としての知識詰め込み型教育という教育実践上の対立を生み出している。その結果，近年の様々なスポーツにおける優れた指導者の不在，日本独自の指導者育成理論の未成熟，及び優れた選手育成の問題といった閉塞的状況を免れていない。

こうした問題に対し，本研究代表者（北村）は，1996 年以来，一貫して熟達化理論に基づき，卓越したパフォーマンス獲得における心理的な体験に着目し，エキスパート・スポーツ選手及び指導者の体験の質的な分析を行ってきた。そこで得られた知見に基づき，才能の開花を可能とする指導法に関し，スポーツにおける選手と指導者の熟達化を再評価する枠組みを構築し，学会等に発表し成果をあげてきた（例えば，北村，2005）。また，生田は，「わざ」による新しい知の在り方に関する研究を継続して行い，わざの視点から指導者育成の諸問題について考究を進めてきた（生田，2007）。

２．研究の目的

本研究の目的は，スポーツ指導者の熟達化過程のモデル構築および育成プログラム開発である。本研究は，これまでのスポーツの指導に関わる領域における研究を最大限取り入れながら，スポーツ指導者の指導者としての熟達化過程の構造化を試みることを意図している。

３．研究の方法

(1) ジュニアレベルからエキスパートレベルまでの，国際大会の日本代表チームの監督としてチームや選手の指導経験を持つ指導者，及び継続的に優れた選手を育成しチームの勝利実績を残している指導者 50 名を対象としたインタビュー調査及び行動観察により，優れた思考・行動の詳細について明らかにする。同時に調査対象指導者の指導を受けている選手 100 名へのインタビューにより，選手の視点から捉える優れた指導者の行動や関わりの詳細について明らかにし，優れた指導者のコーチング過程を多角的に分析し，メンタルモデルを構築する。

(2) 上記でモデル化された指導力を獲得した過程を，インタビューで得られた指導者の心理的体験に着目し，指導の熟達化に作用する心理的要因の詳細について質的分析を行い，指導熟達化過程としてモデル化する。

(3) 上記で整理，提案される指導力の熟達化をはかるための支援プログラムを開発し，優れたスポーツ指導者を対象とした継続的なインタビュー調査及び質的分析によって，その有効性・妥当性を検証する。その上で，指導熟達化支援のプロトタイプとして提言にまとめる。

４．研究成果

スポーツ指導者の熟達化の問題を，①知識の変容，②感覚の変容，③行動の変容，④表現の変容，及び⑤関係性の変容，の５つの熟達化の要素に基盤をおき，選手時代からエキスパート指導者に至るまでの体験をもたらす多様な場における相互作用の様態を多角的に捉え直す作業を実施した。これにより，指導者がいかにしてそれぞれの節目における変容の体験を成長に結び付けていったのか分析が可能となり，優れた指導に結びつく行動を生起させる指導者の意識過程全体が明らかにされた。最終的に，指導熟達化モデルは，(1)指導者としての意識変革，(2)関係再構築への認識，および(3)指導役割の取り込み，の３つのカテゴリーから構成されることが明らかとなった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

1. 関矢寛史、玉置應子、北村勝朗、坂田桐子. 2011. 個と集団における変動と安定.（質的アプローチでみる熟達化過程の変動と安定. スポーツ心理学研究 38(1). 32-34,

査読有

2. 西田保、北村勝朗、長谷川悦示、梅﨑高行. 2011. 指導者の言葉がけと動機づけ. スポーツ心理学研究 38(1). 37-39, 査読有
3. 北村勝朗. ゆとり世代を戦力化するための効果的な褒め方・叱り方. 研究開発リーダー49. 2010. 19-24、査読有
4. 生田久美子「教育を文化的視座から捉えなおすことの意味―『文化』と『思考』に着目して―」、『教育哲学研究』第 99 号、教育哲学会、2009 年、1-8 頁、 査読有
5. 生田久美子「〈再考〉教育における『技能』概念―『傾向性』としての『わざ』概念に注目して―」、『第 14 回 秋田大学教育実践セミナー報告書』秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター、2009 年、1-14 頁、査読無
6. Katsuro Kitamura, Shigeru Saito, Takahiro Nagayama. Construction of a Mental Model of Coaching of Expert High School Soccer Coaches in Japan: How Do Expert Coaches Enhance Athletes' and Team Performance? Journal of Applied Sport Psychology 21, 2009.475-476, 査読有
7. 北村勝朗, 齊藤茂, 永山貴洋. 教育情報を取り巻く文化・社会的文脈がスポーツ選手の動機づけに及ぼす影響：日本, 中国, 韓国, ブラジルのスポーツ選手の熟達化過程を対象とした質的分析による日本人に特徴的な動機づけ特質の検討. 教育情報学研究 8、1-10、2009 年、査読有

〔学会発表〕(計 22 件)

1. Katsuro Kitamura, Tamotsu Nishida, Banjou Sasaki, Hirohisa Isogai, Takayuki Shibukura. Qualitative analysis of generalization of effects acquired through sports and health activities in Japan. 2011 AASP (Association for Applied Sport Psychology) Conference, 15 September, 2011. Hawaii, USA.
2. Katsuro Kitamura, Tamotsu Nishida, Banjou Sasaki, Hirohisa Isogai, Takayuki Shibukura. Qualitative investigation of generalization of psychosocial effects of sport activities in Japan: Case study of generalization using retrospective analysis of sport experience. 2011 ASPASP (Asian South Pacific Association of Sport Psychology) Conference, 11 November, 2011. Taipei, Taiwan.
3. 北村勝朗, 西田保, 佐々木万丈, 磯貝浩久, 渋倉崇行. スポーツ・健康活動を通して人は何をどのように学ぶのか？～遡及的分析による心理社会的効果の般化に関する研究～. 日本スポーツ心理学会 第 38 回大会 2011 年 10 月 8 日. 日本大学（東京）
4. 堀正, 徳吉, 中谷陽輔, 北村勝朗. コーチング心理学の理論と実践. 日本心理学会第 75 回大会ワークショップ. 2011 年 9 月 15 日. 日本大学（東京）
5. Katsuro Kitamura. The critical points in coaching expertise of professional soccer coaches in Japan. VIIth WCSF (World Conference of Science and Football). 28 May 2011. Nagoya, Japan
6. Kumiko IKUTA "Toward the New Form of Knowledge-Some Implications from Experiences in the Japanese Performing Arts," The Educational Issues in Japan and Italy: From the viewpoint of Art and culture, in: University of Turin, Italy, 2011.01.07
7. 北村勝朗. 質的アプローチでみる熟達化過程の変動と安定. 日本スポーツ心理学会第３７回大会 シンポジウム「個と集団における変動と安定」シンポジスト 福山平成大学、2010 年 11 月 20 日
8. 生田久美子（指定討論者）「『甘え』の比較人間形成論―土居理論と教育現実のあいだ―」教育思想史学会第 20 回大会コロキウム 2、於：日本大学文理学部百周年記念館、2010 年 9 月 19 日
9. 生田久美子（シンポジスト）「『わざ』の伝承における『省察』とは何か？―Task か Achievement か？―」、日本教師学学会第 11 回大会シンポジウム「教師学における省察」、於：兵庫教育大学神戸サテライト、2010 年 2 月 27 日
10. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama. Achieving a breakthrough in coaching: A Qualitative Analysis of Coaching Expertise of Expert Professional Soccer Coaches in Japan. Congress of the International Association of Physical Education in Higher Education (AIESEP) 2010. 26 October, 2010. La Corunna, Spain
11. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama. Learning Process to Be an Expert Coach: A Qualitative Analysis of Coaching Expertise of Expert Coaches in Japan. The International Conference for the

30th Anniversary of the JSSE. 9 October, 2010. Tokyo, Japan
12. Takahiro Nagayama, Katsuro Kitamura. An Investigation of High School Rhythmic Gymnasts' Beliefs about Tacit Knowledge. The International Conference for the 30th Anniversary of the JSSE. 9 October, 2010. Tokyo, Japan
13. 北村勝朗. 永山貴洋. 優れた指導者は指導場面でどのような見通しと判断に基づき指導行動を行っているのか？～エキスパート・スノーボード指導者を対象とした「行為の中の省察」の質的分析～. 日本体育学会第６１回大会. 2010 年 9 月 8 日. 中京大学
14. 永山貴洋. 北村勝朗. 優れた高等学校男子新体操選手のコツ習得に対する認識論的信念の質的分析. 日本体育学会第６１回大会. 2010 年 9 月 8 日. 中京大学
15. 北村勝朗, 西田保, 杉山哲司, 長谷川悦示, 齊藤茂. 日本スポーツ心理学会第３６回大会. シンポジウム：内発的動機づけ, 外発的動機づけの再考：自己決定理論をめぐって. 2009 年 11 月 20 日. 首都大学東京
16. 生田久美子（パネリスト）「豊かな学びを引き出す授業づくり～Less Teaching, More Learning」、山梨学院大学附属小学校公開研究会シンポジウム、山梨学院大学附属小学校、2009 年 9 月 9 日
17. 北村勝朗, 齊藤茂, 永山貴洋. スノーボード・ハーフパイプ競技の動作意識に焦点を当てた熟達者と非熟達者との比較分析. 日本体育学会第６０回大会. 2009 年 8 月 26 日. 於：広島大学
18. 永山貴洋, 北村勝朗, 齊藤茂. 学習者の相互作用が動作のコツ習得に与える影響の質的分析. 日本体育学会第６０回大会. 2009 年 8 月 26 日. 於：広島大学
19. 生田久美子（講演）、野中郁次郎（主催）「『わざ』から知る―もうひとつの『知』の形式を求めて―」、日本生産性本部・経営革新委員会講演会、2009 年 7 月 4 日、日本生産性本部、東京都
20. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito. A Qualitative Analysis of coaching expertise of professional soccer coaches in Japan. Proceedings of 12th World Congress of Sport Psychology. 16, June, 2009. Marrakech, Morocco
21. Katsuro Kitamura, Takahiro Nagayama, Shigeru Saito. A Qualitative Analysis of metaphorical expressions of university rowing coaches in Japan. Proceedings of 12th World Congress of Sport Psychology. 16 June, Marrakech, Morocco, 2009.
22. 北村勝朗, 齊藤茂. Ｊリーグ監督を対象としたコーチング熟達化過程の質的分析. 日本フットボール学会第６回大会. 2009 年 2 月 14 日. 於：武蔵大学

〔図書〕（計３件）
１．生田久美子・北村勝朗編著, 慶応義塾大学出版会,『わざ言語～感覚の共有を通しての「学び」へ』, 2011 年, 1-365 ページ
２．北村勝朗「ICT を活用して身体の動きを学ぶ」, 渡部信一監修,『高度情報化時代の「学び」と教育』東北大学出版会, 2011 年, 269-287 ページ
３．生田久美子「わざの習得」、海保博之・松原望（監修）、竹村和久・北村英哉・住吉チカ（編）『感情と思考の科学事典』、朝倉書店、2010 年、264-265 ページ

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
北村　勝朗（KITAMURA KATSURO）
東北大学・大学院教育情報学研究部・教授
研究者番号：50195286

(2)研究分担者
生田　久美子（IKUTA KUMIKO）
田園調布学園大学・子ども未来学部・教授
研究者番号：32720903

(3)連携研究者
なし